

047

## 農業と防災をテーマにしたアミューズメントパーク「nuovo（ノーボ）」の運営と重機オペレーターの育成

取組主体

一般財団法人日本笑顔プロジェクト

従業員数

4人

想定災害

全般

実施地域

長野県

- 令和元年東日本台風による被災の経験から、重機オペレーター育成のためのトレーニング施設を運営。平時には初心者や女性でも受けやすい資格講習を実施、災害時には重機による撤去活動等の災害支援を実施。

### 1 取組の特徴（はじめたきっかけ、狙い、効果、工夫した点、苦労した点）

#### 災害時に必要となる重機オペレーターの人材育成

- 一般財団法人日本笑顔プロジェクトは、東日本大震災の被害を目の当たりにし、「一人ひとりが笑顔を持って、家族、友だち、職場、地域に笑顔をつなげたい」という思いから、平成24年に同法人代表によって立ち上げられた。「元気で笑顔の輪を日本全国へ！」をコンセプトに、防災・減災の実施及び被災地における復旧・復興を行うことを目的として活動を行っている。



重機講習会

- 令和元年東日本台風により同法人本部がある地元・長野が被災を受け、千曲川の越水と決壊から、住宅地や農地に大量の泥が流れ込む被害が発生した。ボランティアによるスコップでの復旧作業は効率が低く、時間と疲弊感が増すばかりであった。そこで効率よく作業ができる重機の必要性を感じ、日本笑顔プロジェクトで重機及び重機オペレーターの募集を行った。その結果、重機は集まっても、重要な重機オペレーターが集まらないという問題に直面した。また、オペレーターが集まったとしても、いわゆるペーパードライバーの方が多く、思うように作業が進まなかった。
- この経験がきっかけとなり、同法人では重機オペレーター育成の必要性を痛感し、地域の課題である“農業”と“防災”を一緒に解決するためのテーマパーク「ライフアミューズメントパーク nuovo（ノーボ）」の構想を打ち出した。令和2年10月より同施設をオープンさせ、四輪バギーや重機の体験、小型重機の資格講習会、日本初のサブスクリプション（月額課金制）による重機のトレーニングサービスを開始した。重機のトレーニングでは独自の重機検定を設け、目標を持って楽しみながら災害時に必要なスキルを身に付けることができる。

#### 「楽しむ」観点を取り入れた、自助・共助に関わる人のすそ野を広げる工夫

- 小型重機の資格講習では、実技講習での重機の台数を増やしたり、重機のパフォーマンスタイムを設けたりするなど、初心者でも楽しく受講できる工夫をしている。そのため、受講生の9割以上が、普段の仕事では小型重機を使わない初心者で構成されている。また、力仕事には向かないと言われる女性こそが、重機オペレーターとして活躍する機会があるという思いから、同法人では「重機女子」という言葉を全面に打ち出した講習会を行っており、受講生の約3割を女性が占めている。
- 小型重機の資格を取得できる場所は全国で多数存在するが、その後の操縦トレーニングもできる施設は全国でも数少ない。同法人では、資格取得によって有事に備えるだけでなく、トレーニングにより有事に対応できる重機オペレーターの人材育成を日々行っている。
- 災害時に必要なスキルを体験型のアミューズメントパーク化し、「楽しむ」という観点を随所に取り入れることによって、防災に興味のない層の積極的な参加につながっている。同法人は「楽しんでいたら、防災力も向上していた」という状態で自助力が向上することを目指している。また、重機に関しては資格取得後も引き続き指導者付でトレーニングできる環境と、楽しく災害時のスキルを身に付けることができる検定を用意することで、各自のモチベーションの維持・向上を図っている。

## 国土強靱化

- 有事の際には重機検定取得者に対し同法人が声がけを行っており、被災地へ赴いて重機オペレーターとして災害支援活動を行うメンバーも多く存在する。



各地での災害復興支援

### 2 取組の平時における利活用の状況や防災・減災以外の効果

- 重機を間近で見て体験もできるため、はたらく車が好きな子どもが楽しめる観光スポットとなった。また、小型重機の講習会を受講したことがきっかけで、重機に興味を持ち、実際に建設・土木業界に転職を決めた例もあり、建設・土木業界の担い手不足の解消にもつながっている。
- 地域の問題となっている遊休農地を防災施設として有効活用している。災害時に不足しがちな野菜の確保・備蓄するために、根菜類を主とした畑も併設で管理することにより、農業の担い手不足にも貢献している。

### 3 現状の課題・今後の展開等

- 大規模化、頻発化する災害において、いち早く現場に駆けつけるためには、全国各地に、重機のトレーニングができる施設・拠点が必要となる。特に、コロナ禍において越県による活動が制限される中、自分たちの地域や大切な人を自分たちで守るためにも、各都道府県に施設・拠点ができることが急務であると言える。
- 災害時の重機支援活動に対する必要性が認識されていないことが多く、認知度もまだまだ低い。その結果、安心して活動を行うための法律・制度や保険が確立されていない部分が多く、作業リスクが大きい点が課題である。

### 4 周囲の声

- 水害が発生した際、浸水被害を受けた建物の泥出しの手伝いをしたが、非力な女子の力ではできないことはあまりなかった。また、近くに小型重機があったが、使える人が来ないと使えない状況を目の当たりにしたため、自分でも重機が使えたらと思っていた。講師の経験を踏まえ、必要なことを端的に伝えてもらったので、初めてで、ただでさえ用語を覚えるだけで大変な状態でも理解することができた。（受講者・40代女性）

#### 担当者の声

- 災害現場の声を聞くと、被災者は口を揃えて「まさか自分が被災するとは思わなかった」と言います。防災を他人事から自分事にするために、既存の防災へのアプローチを変えて、「楽しい」を入り口にするによって、一人ひとりの自助・防災力を向上させ、ひいては日本全体の防災力強化につながると信じています。

#### 問合せ先

一般財団法人日本笑顔プロジェクト 法人番号：7100005012602  
TEL：070-2023-5110 FAX：026-247-7570 E-Mail：nuovo@egaonowa.net

#### サイト URL



#### 動画

